

白川愛の活動報告



わたし
容赦しないので!
闘う
母性。

白川の議会活動を扱った新聞報道から 一期4年間を振り返る!

※著作権の関係上、掲載記事はボカシてあります。詳細はQRコードにて。

DV被害者の転居先漏洩を暴く!

区政レポート
vol.3に
詳しく掲載



▶ シングルマザーの避難住所をDV夫に漏洩

個人情報を握ることは、他人の人生を握ること。区の職員による人為的ミスにより毎年、相次いで発生する個人情報漏洩事案は、組織としての緊張感の無さが原因です。しかも、明確な事故の発生を一年にわたり隠し続けた目黒区の欺瞞と不手際。隠し続けたことにより、被害者への謝罪や補償、再発防止策実施の全てが遅れました。被害者からの連絡を受け私が議会で区長に質問、事実が公になった。

※記事の詳細は下記QRコード



読売新聞オンライン



朝日新聞デジタル



朝日新聞2020/9/9

※掲載は
朝日新聞(2020/9/8版)/読売新聞(2020/9/9版)/毎日新聞(2020/9/10版)
毎日新聞(2020/9/22版)/毎日新聞(2021/1/21版)

暗黒議会で孤軍奮闘!

区政レポート
vol.3に
詳しく掲載



▶ 区民に公表されないという 闇の会議が目黒区議会には存在!

公文書は「区民のもの」は当たり前なのに目黒区議会では公然と裏会議が行われていた。私はその裏会議の存在を広く区民に知らしめたところ、一年間にわたり「資料開示」はおろか「傍聴」すら拒否されつづけていた。

※記事の詳細は下記QRコード



毎日新聞



毎日新聞続報



毎日新聞2020/10/30

重度障害男性の「働きたい」行政動かす 目黒区議会で「33年ぶりの請願」!

区政レポート
vol.5に
詳しく掲載



▶ 重い障がいがあっても働ける世の中に

就労中に必要な介助費用を補助する国の事業が3年前に始まったが、目黒区の反応が情けない。24時間介護が必要な重度障がいがある男性(36)の思いを届ける。

▶ 最初は「ネガティブな印象」だった目黒区の対応

彼が「介護費用を自己負担で賄うのは難しい。働いている間でも介助を公費で受けられる『就労支援特別事業』を国が始めたことを思い出しこの事業を利用しようと、窓口の目黒区にヘルパーを通じて確認したところ…。回答は「導入していないし、めどもたっていない」。

▶ あきらめずに請願「自己実現を図ることは重要」

知人を通じて彼と出会い、目黒区議会に33年ぶりに請願を提出。「重度障がい者であっても、働くことで経済的に自立し自己実現を図ることは重要」。誰もが障がいを抱える可能性がある、とも訴えた。議会は昨年末に請願を趣旨採択。目黒区は、今年4月に制度を導入するための準備を始めた。 ※東京新聞2023/2/19掲載記事より抜粋引用

※記事の詳細は
下記QRコード



東京新聞Web



東京新聞2023/2/19



めぐろの“すっぽん”こと、 白川愛のいわれとその沿革!



- ▶2013年 第三子を低体重児として出産、待機児童問題に直面し職場を退職。
- ▶2015年 通学中の少年の解けた靴ひもが自転車に巻き込まれた事が原因で交通事故にあい、尊い命を失うという痛ましい事故が起きた。この出来事を機に、アメリカで開発された、結ぶ必要がない、解けない靴ひもを日本で販売するためにクラウドファンディングで資金調達。解ける靴ひもに悩まされる全ての人のために、株式会社ZubitsJapanを起業。
- ▶2018年 目黒区内で両親からの度重なる虐待を受け「おねがい ゆるして」と書かれたノートを残して亡くなった5歳の女の子の事件を機に、児童相談所の体制や警察との情報共有の在り方に疑問を抱き、児童虐待死ゼロを実現するために地域活動を開始。
- ▶2019年 「目黒区児童虐待防止条例の制定を求める陳情」

を目黒区議会に提出。ひとりの区民として陳情を提出した際の区議の陳情者に対する対応に絶望感を抱いた。

- ▶2019年 自らが区議会議員になることを決意。目黒区行政が把握し、管理、保護、活用している全ての区民の情報の持つ真の「価値」への正しい理解を求め続けている。
- ▶日韓関係が悪化する中での友好都市協定締結に一人反対したことで、初議会でヤジの嵐に見舞われる。報道で知った区民からは、「なぜ、今なのか?」と多くの声が寄せられた。
- ▶2020年 議事録も残されず、区民にも非公開、会議資料は廃棄される暗黒区議会(裏会議)の実態が新聞報道される。
- ▶DV被害者の転居先を漏洩させる目黒区行政に噛みついたことが相次いで新聞報道されたことから、「めぐろのすっぽん」と呼ばれるようになった。



青木区長に重度障害者等就労支援特別事業の「予算要望」 トルコ・シリア大地震支援募金



目黒川の治水対策として船入場調節池、荏原調節池の視察

【ご挨拶】“愛をカタチに。想いをヒトツに。”

生まれ育った目黒区は私にとってのふるさとです。幼少期おぼろげに感じ取っていた「困ったときはお互い様」という日本に広く根付いた助け合いの精神や地域の信頼と規範、そしてネットワークを私たち現役世代が更に育み次世代にも受け継いでいきたいと願っています。私たちにとって便利や快適は見えやすいものです。その一方でどこかで誰かが孤独になっているという現実は見えにくいものです。人を思いやる気持ちが全ての区民のウェルビーイングの向上につながると信じて。私は皆さんの想いを政策として、愛のある目黒区を育むために提言し続けます。

「拉致被害者の奪還のため、一丸となりましょう!」 北朝鮮に拉致された日本人を救出するための全国協議会

自由を守る会

@aishirakawa1

facebook.com/aishirakawa.tokyo

地域のことは
地域で決める

会員
絶賛募集中

自由を守る会 白川愛

153-0051
目黒区上目黒3-6-5 中目ビル2階
080-7505-0905
ai@aishirakawa.tokyo

検索



ブログも
ご注目ください。

http://aishirakawa.tokyo/